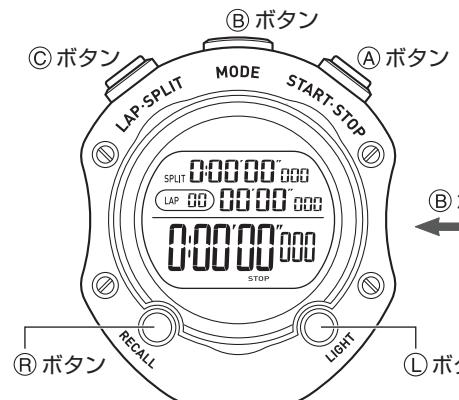


Operation Guide HS-60W

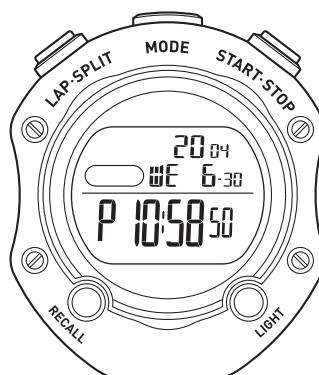
各部の名称と表示の見方

Ⓐ ボタンを押すごとにストップウォッチモードと時刻・カレンダーモードが切り替わります。詳しくは各機能の項目をご覧ください。

ストップウォッチモード



時刻・カレンダーモード



各ボタンはストップウォッチモードで以下のように機能します。

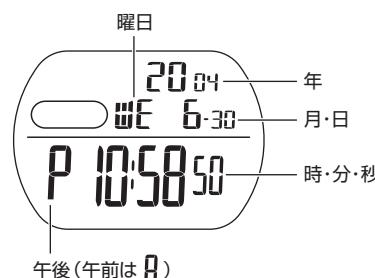
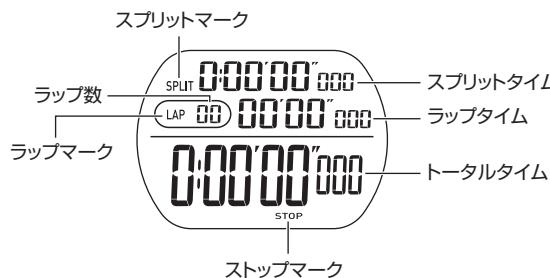
Ⓐ ボタン
スタート／ストップ操作を行ないます（操作確認音が鳴ります）。

Ⓑ ボタン
ストップウォッチモードと時刻・カレンダーモードを切り替えます。

Ⓒ ボタン
ラップ・スプリット／リセット操作を行ないます（操作確認音が鳴ります）。

Ⓓ ボタン
記録したラップ・スプリットタイムを呼び出す時、使います。

Ⓔ ボタン
押すと約3秒間ライトが点灯します。



各計測タイムは以下の範囲まで計測します。

スプリットタイム : 9時間59分59秒999
(10時間計)

ラップタイム : 59分59秒999
(1時間計)

トータルタイム : 9時間59分59秒999
(10時間計)

※ 機種により形状等が異なることがあります。

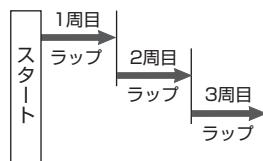
ストップウォッチ機能の使い方 1

本機は計測した時間（ラップタイム、スプリットタイム）が自動的に記録（メモリー）されます。記録されたラップタイム、スプリットタイムは計測中及び計測終了（ストップ）後に呼び出して見ることができます。

●ラップタイムとスプリットタイムについて

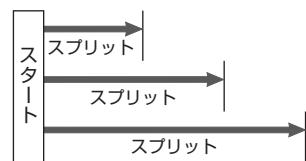
- ラップは計測中の任意の区間の所要時間

例：自動車の周回レース等



- スプリットはスタート地点から任意の地点までの経過時間

例：マラソンの10kmまでのタイム等



●計測範囲について

各計測タイムは以下の範囲まで計測します。

スプリットタイム
→ 0時間00分00秒000～9時間59分59秒999 (10時間計)

ラップタイム
→ 00分00秒000～59分59秒999 (1時間計)

トータルタイム
→ 0時間00分00秒000～9時間59分59秒999 (10時間計)

●ラップ数について

ラップ数は以下の範囲まで計測します。

ラップ数

→ 00～99

- ラップ数は99を越えると00に戻ってカウントを続けます。

- 計測範囲を越えた場合、表示は0に戻って計測を続けます。

■ 計測のしかた（表示例はわかりやすくする為、わかりやすい数値を使用しています。）

- ストップウォッチは使用していないときはリセット表示にしておいてください。

●通常計測

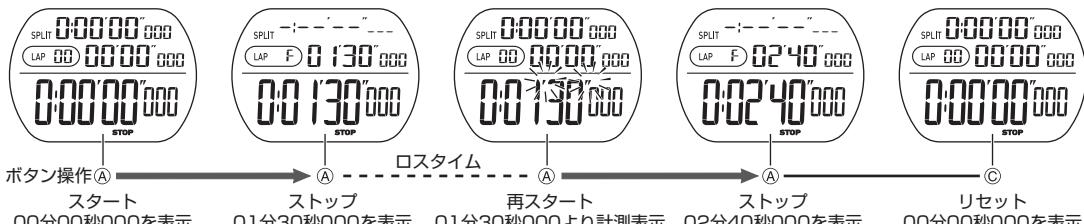
- Ⓐボタンでスタート、ストップ操作。Ⓒボタンでリセット。

最終ラップを意味します。



●積算計測

□スタイルがある場合には、ストップ後リセットせずに再スタート（Ⓐボタンを押す）すれば、表示タイムに引き続き計測をはじめます。

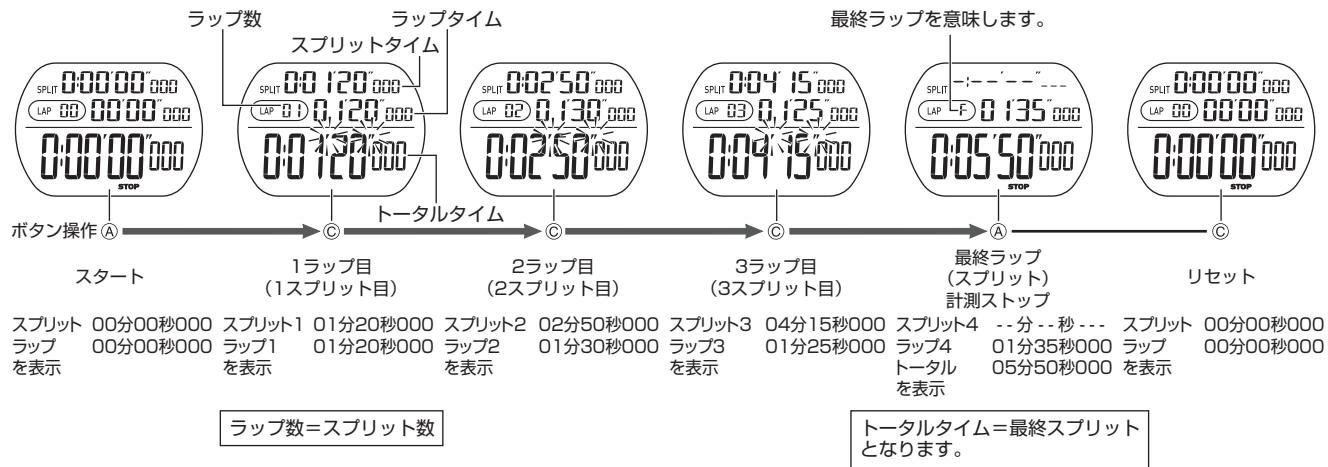


□スタイル：この間は計測していません。

ストップウォッチ機能の使い方2

●ラップ・スプリットタイム計測

下記の図はラップ計測の場合を示していますが、ラップタイム計測もスプリットタイム計測もボタン操作は同じです。

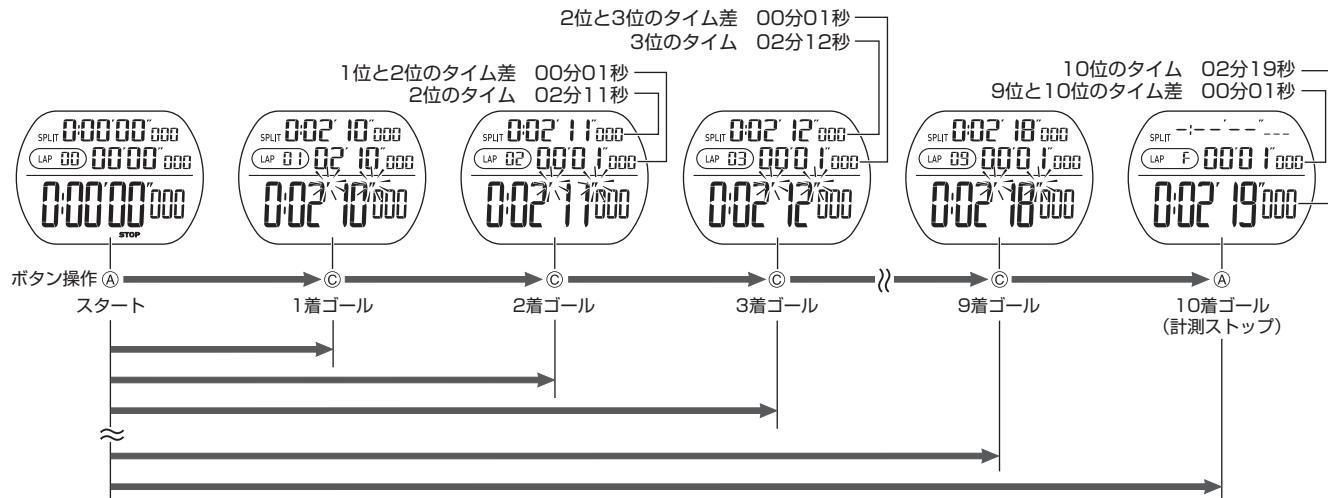


※ 最後にゴールするときにⒶボタンを押します（計測はストップします）。この時、最終スプリットはトータルタイムを見てください。

※ ラップ・スプリット計測でも積算計測は可能です。計測中にⒶボタンを押すと計測は停止します。もう1回押すと計測は再スタートします。

●1～10着の同時計測

メモリーを使い、10人のタイムを計測した場合（1位が02分10秒でゴールし、2位以下が1秒毎にゴールした場合）。



※ 100人目の着タイムを計測するときは、④ボタンではなくⒶボタンを押して計測をストップしてください。④ボタンを押すと、最後にⒶボタンを押したときのタイムが100番目のメモリーに記録されますので、Ⓐボタンで呼び出したときに100着目のタイムとなりませんのでご注意ください。

※ 最後にゴールするときにⒶボタンを押します（計測はストップします）。この時、最終スプリットはトータルタイムを見てください。

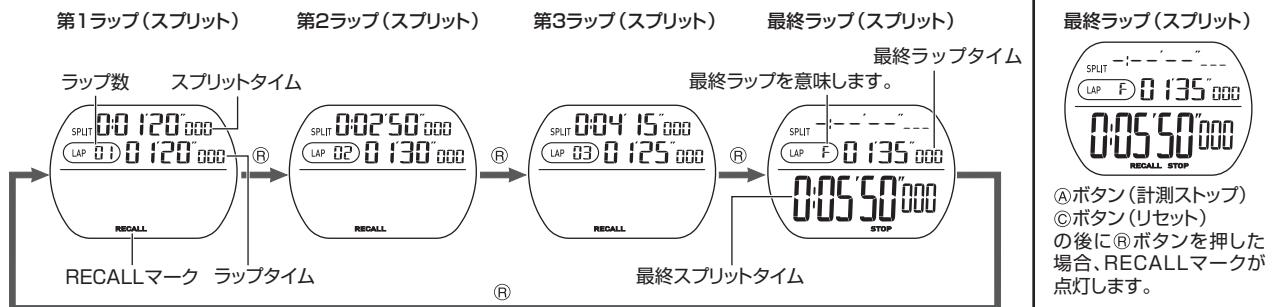
メモリーについて

- メモリーは最大100本まで記録できます。メモリーの内訳は初めのラップタイム及びスプリットタイム99本と最終タイム1本です。
- ラップ数が100を越えた時点でメモリーが一杯になったことを知らせる為、ラップ数が点滅します(100から点滅)。
- 記録されたラップタイム、スプリットタイムは計測中及び計測終了(ストップ)後に呼び出して見ることができます。
- メモリーはリセット操作(◎ボタン)の後のスタート操作(Ⓐボタン)でクリアされます。

●メモリーの呼び出し

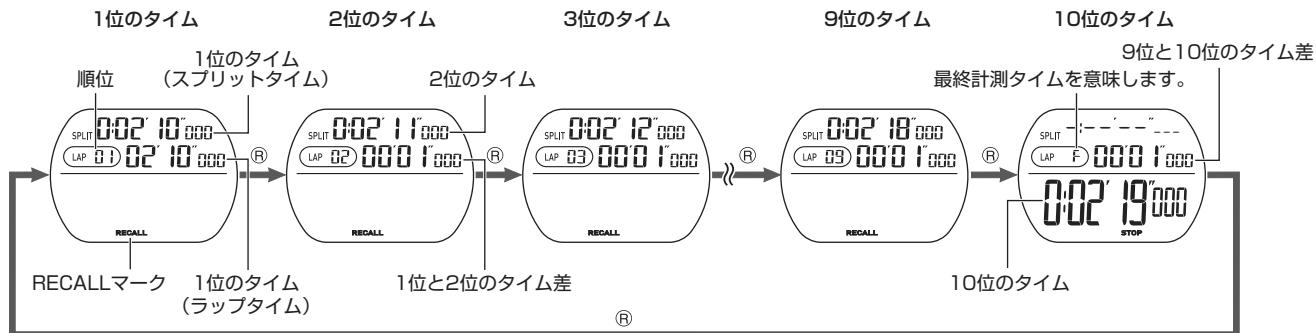
◎ボタンを押し計測したラップ及びスプリットは、Ⓐボタンを押すとに順に呼び出すことができます。

例 ラップ・スプリットタイム計測の場合(Ⓐボタンを押し計測ストップをしたあとにⒶボタンを押します)

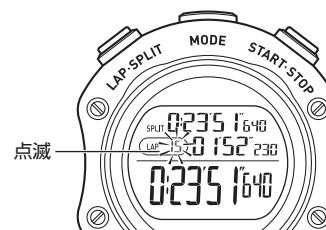


※ 計測中でも Ⓢ ボタンを押し、メモリーの呼び出しができます(計測はそのまま行なわれています)。

例 1~10着の同時計測の場合



※ 計測中でも Ⓢ ボタンを押し、メモリーの呼び出しができます(計測はそのまま行なわれています)。



秒の合わせ方（30秒以内の遅れ進みの修正）

月に1度ぐらいこの「秒合わせ」をしていただぐと、時計はいつも正確です。

- ・ストップウォッチの計測中、停止中などの状態を問わず時刻の修正は可能です。

- (1) 時刻・カレンダーモードのとき ②ボタンを約2秒間押し続けると秒が点滅します。

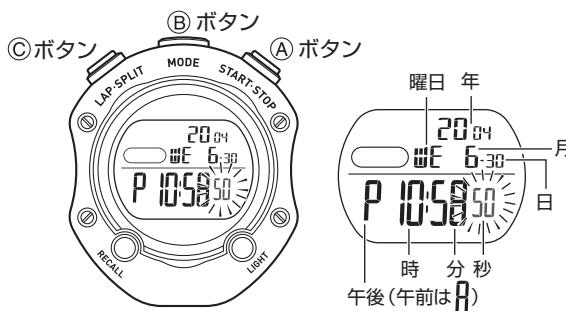
- ・ストップウォッチモードで ②ボタンを押すと時刻・カレンダーモードに切り替わります。

- (2) 時報に合わせて、①ボタンを押すと「秒」が点滅しながら00秒からスタートします。

秒が00～29秒のときは切り捨てられ、30～59秒のときは1分繰り上がって、00秒からスタートします。

- (3) ②ボタンを押すと点滅が止まり、セット完了です。

- 時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まります。

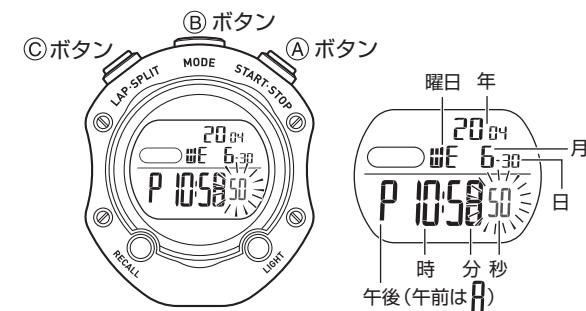


時刻・カレンダーの合わせ方

電池交換などで時刻やカレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。

- (1) 時刻・カレンダーモードのとき ②ボタンを約2秒間押し続けると秒が点滅します。

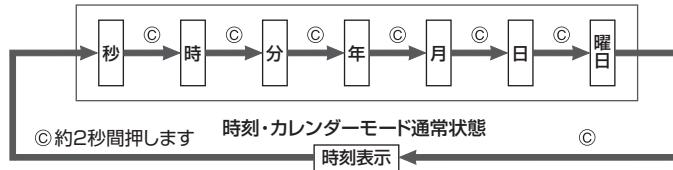
- ・ストップウォッチモードで ②ボタンを押すと時刻・カレンダーモードに切り替わります。



- (2) ②ボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。

点滅箇所がセット可能ですので、②ボタンでセットしたい箇所を選びます。

時刻・カレンダーモードセット状態



曜日のセットから時刻表示にした時点でセットは終了です。再度セットを行ないたいときは(1)の手順からはじめてください。

- (3) ①ボタンを押すごとに点滅箇所が1つずつ進みます。

※ ①ボタンは押し続けると早送りができます。

②ボタンでセットしたい箇所を選び、①ボタンで表示をセットするという操作を繰り返し行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。

※「時」のセットのとき午前 (R点灯) / 午後 (P点灯)、24時間制にご注意ください。

※12/24時間制の切替は時刻・カレンダーモード通常状態で ①ボタンを約2秒間押し続けると切り替わります。

- (4) セットが終わりましたら(どの箇所が点滅していても) ②ボタンを押すと点滅が止まり、セット完了です。

- カレンダーはうるう年及び大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換以外は修正不要です(2000年～2099年)。

- 時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、2～3分後自動的に点滅が止まります。